

こんなんでも将来“就職”できますか？ ダメダメわが子の 適性相談室

日常の子どもの言動を見ていると、「こんなんでもうちの子、将来やっていけるのかしら？」と不安に思うこともあるでしょう。でも、大丈夫。どんな子どもたちにも、その子なりの長所や適性が必ずあるものです。そこで、大学生の就職相談を受けるキャリアカウンセラーが、どのように学生たちの長所や適性を引き出しているのか、ヒントを教えてくださいました。

まとめ／編集部 人物撮影／トライ・アングル企画

“相談” 01

勉強が楽そうだから文系に進みたいと言って
いるわが子。成績はそこそこいいし、将来のこ
とを考えると理系のほうが就職がいいと聞くの
で、理系に進ませたほうがいいのでは？

Answer

逃げの言葉の真意を探ってみる

「楽そう」という言葉の裏には、自分なりの得意・不得意を漠然と感じ取っている可能性があります。テストでは点数を取れても、根本的に理系系ならではの論理的な思考や実験などで事実を積み上げていくことが苦手という場合もあります。文系なら何がおもしろそうかを考えさせてみてはいかがでしょうか？ ちなみに、就職は理系が有利と一概に言えません。勉強も仕事も、本人が主体的に「頑張ろう!」という意欲をどれだけもてるか次第です。



profile

キャリアカウンセラー
清水由佳さん

長年、『就職ジャーナル』などキャリア関連の記事編集・ライティングを行い、現在、大学においてキャリアカウンセラーとして年間延べ1000人以上の学生の相談を受ける。GCDF-Japanキャリアカウンセラー、2級キャリア・コンサルティング技能士

特別な能力が適性 という誤解

「特に取り柄がない」「人と比べて何か特別な能力があるわけじゃない」。よく、将来を考えると口に言われがち言葉です。

「適性を、特別な能力としてとらえようとしてしまうためです。でも、実際には特殊能力が必要な仕事はほとんどなく、むしろ、人と話をするのが大好きとか、パソコンをいじっているのなら、何時間でも苦にならないとか、ちょっとした日常の好き・嫌いや頑張ることなどの傾向が、仕事の適性につながっていきます。まずは日ごろの言動をしっかり見つけてみるのが、自分の適性に気づく第一歩になります(清水さん)」。特に、保護者だからこそ、本人が忘れてしまっているような幼いころの頑張り具合や、好き・嫌いのこだわり、傍から見ていて頑張っていたなと思ったことなどを話してあげると、適性に気づくヒントにもなるかと。

「特別にすごいことを思い出す必要はありません。日常のちよとした出来事の中で垣間見られたお子さんの様子でいいんです。大学生でも、保護者の方が話してくれた過去の出来事がキッカケで、やりたいことの焦点を絞っているケースはよくあります。ぜひ、たくさん話をしてみてください」

“相談” 02

試験前でも勉強はろくにせず、**ゲームばかりや**っている。遊んでばかりいないで、ちゃんと将来のことを考えて勉強してほしいのだが…。

Answer

ゲームの何に魅力を感じているのか

遊びであっても、熱中していることは本人のこだわりや適性を発見するヒントになります。叱るのではなく、ゲームのどんなところが楽しいのか話してみてもいいでしょうか？ ストーリーがおもしろい、技術的な進歩に惹かれている、仲間と競い合うのが楽しいなど、それぞれに興味をもっているポイントがあるはずです。そして、それらにかかわる仕事はどんなことがあるのかなど調べさせてみると、将来を考えるキッカケにもなると思います。

“相談” 04

何かに熱中したりすることもなく、**何となく毎日**を過ごしているふうのわが子。本人も、やりたいことがわからない、何に向いているかもわからないと言っていて、わが子ながらイライラする。

Answer

些細なことでも感情の動きに注目

大学生でも多い悩みです。何か特別熱中したことがあるわけではなく、やりたいことがあるわけでもないで立ち止まってしまうケース。でも、好き・嫌い、楽しい・楽しくないなどの感情は必ずあります。本人が、そんな日頃のちょっとした出来事における感情の動きに注目することが第一歩。保護者の方であれば、子どもが忘れてしまっている過去の「こんなことがあったよね」を教えてあげられると、本人の気づきに結びつく可能性があります。

【 アセスメントも 適性発見のヒント

好き・嫌いや力を発揮できていたことなどを考えていく中で、適性診断などのアセスメントも客観的に自分を振り返るキッカケとして活用できます。

「これまでのことを、なかなか思い出せない場合、診断結果に関連するこれまでの行動や思考がなかったか考えると、自分を再発見する糸口になります」

多くの高校で採用されている R-CAP for teens という適性診断は、個人の能力ではなく、考え方や行動特性が近い人々が活躍している分野を診断結果として出しています。つまり、その分野で求められている仕事内容や学問傾向が、自分のこれまでの行動特性や考え方の傾向に通じるものがあるという判断が可能なのです。

「さらに、好きや嫌いの感情は何となくわかっていても、その感覚をどう仕事や学びに結びつけるのか、一人で考えていてもわかりづらいことがけっこうあります。そんな考え方の参考にできるのも、適性診断の良さでしょう。よく、思ってもいない結果が出たという声が聞かれますが、意外なもの、なぜその結果が出ているのかを考えてみる。そうすることによって、先入観でとらえていた仕事や学問の内容への理解が深まりますし、新しい可能性の発見につながることもなります」

“相談” 03

小さいころから引っ込み思案な子なのに、**本人は子どもが好きだから保育士になりたいという。とても向いているとは思えないのだが、大丈夫だろうか？**

Answer

自分をどう活かせるか調べさせてみて

仕事によって、「こんな人が向いている」という傾向はありますが、それがすべてではありません。仕事にはいろいろな側面があるので、その仕事の中で自分をどう活かせるか考えることも大事です。「引っ込み思案」ということですが、その分、じっくりいねいに人と向き合えるのかもしれないし、周囲となかなか馴染めない子どもの気持ちを察してあげることが得意かもしれません。自分とその仕事との接点を考えさせてみてください。

適性発見の
ヒントに!!

12の「仕事の好み」

以下は、適性診断のR-CAP for teens※で分類されている仕事分野です。好みと仕事の関係のヒントにしてみてください。

01 道具や機械を使うのが好き

機械などを使い、技術的な能力が発揮できるような仕事を好みます。

●職種例
ネットワークエンジニア、プログラマー、自動車組立・修理など

02 物を作るのが好き

自分のイメージしていることを、具体的な形にしたり、何かを作り上げるような仕事を好みます。

●職種例
建築・土木・プラント設計、イラストレーター、シェフ・調理師など

03 数字・データを使うのが好き

多くの数字やデータを論理的に使用して、物事を分析するような仕事を好みます。

●職種例
システム運用・保守、司法書士・行政書士、積算、調査研究員など

04 アイデアを考えるのが好き

創意工夫を凝らして新しいものを企画したりするような仕事を好みます。

●職種例
商品企画・開発、機械・メカトロ設計、ゲームクリエイターなど

05 人と接するのが好き

仕事の大半を人と話して過ごしたり、社外の人とのかわわりを多くもつような仕事を好みます。

●職種例
営業職、フライトアテンダント、美容師・理容師、秘書・受付など

06 人の役に立つのが好き

誰かの手助けをしたり、支えたりするような仕事を好みます。

●職種例
介護士、保育士・幼稚園教諭、心理カウンセラーなど

07 コツコツやるのが好き

たくさんの仕事を自分でペースを決めて、根気よく仕上げていくような仕事を好みます。

●職種例
経理・財務・会計、大学教授・准教授・講師、大学職員など

08 キッチリしたことが好き

ルールに基づき、正確に物事を遂行しなければならないような仕事を好みます。

●職種例
臨床検査技師、会計士・税理士、生産・品質管理など

09 物事に挑戦するのが好き

世の中になく視点から、新しいビジネスを企てたりするような仕事を好みます。

●職種例
応用研究・開発、ビジネスコンサルタント、アナリストなど

10 周囲に影響を及ぼすのが好き

戦略的に仕事を組み立てて、周囲の人へ指示するような仕事を好みます。

●職種例
スーパーバイザー、施工管理、証券アナリストなど

11 感性を活かすのが好き

造形的なものを通して自分の感性を表現したり、自分の好きな環境で創造性を発揮できる仕事を好みます。

●職種例
ファッションデザイナー、インテリアコーディネーターなど

12 自分を表現するのが好き

表舞台に立って、人から注目されるような仕事を好みます。

●職種例
アナウンサー・レポーター、役者・俳優、カメラマンなど

※R-CAP for teensは、株式会社リアセックが開発・運営している主に高校生を対象とした適性診断です。基本的に、学校単位で実施されています。

やりたいことは
変化して当たり前

ただし、好き・嫌いやこだわり、得意・不得意などは、経験を重ねることで変化して当たり前です。「人見知り」だと保護者が思っているても、子どもは部活動や地域活動などを通じて人との関係づくりに興味をもっている場合があります。保護者には見せていない二面もあるでしょう。

「いろいろな経験を通じて、子どもたちは驚くほど成長していきます。それだけ変化の激しい年代なので、やりたいことがころころ変わっていると思うこともあるでしょう。でもそれは、決していい加減とばかりはいえません。そんなときは、なぜ、変化しているのか。その理由をきちんと聞くといいと思います。本人もうまく言葉にできていなかった自分の考えが整理されていくことになるでしょう」

また、あまりにも「やりたいこと」を重視しすぎることが、「一歩踏み出す勇気を阻む結果になることもある」といいます。

「社会人だって、仕事をしながら本当にやりたいこと、自分に向いていることに気づいていくのはよくあることです。経験や環境によってやりたいことも適性も変化して当たり前。だからこそ、あまり固定的に考えず、柔軟に考えていくことが大切です」